

科目名	教育相談			ナンバリング	EDU132	授業形態	講義
対象学年	2 年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	名取洋典	担当教員					

授業の概要	この授業の目的は、教育相談的な姿勢で指導することの有効性について考えることである。 より具体的には、問題を抱えた特定の児童・生徒に対しての相談活動だけではなく、日常の教科指導・生徒指導の中で教育相談的な姿勢で対応することの有効性について考えていく。そのために第1に、精神分析と、来談者中心療法などのカウンセリングの基礎知識について説明する。第2に、今日的な課題(いじめ・不登校・薬物等)への対応を考えていく。第3に、学級集団への働きかけについて考えていく。教育現場で他の教員や専門家、保護者と連携しながらチームでの教育相談を主体的に実践できるよう、体験的に理論を学習するとともにロールプレイも用いて新しい方法を試行する。						
到達目標	1 教育現場でカウンセリング・心理療法の理論を理解した上で、教育相談を行う意義を考えることができる。 2 児童・生徒に対する対応と援助に関する具体的な方法を身につける。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	「教育相談」という特性上、授業内で学生同士の積極的なコミュニケーションを求めます。また、日常的にも、ポジティブな姿勢で人と関わることを試行することを求めます。いつも後ろ向きな姿勢を見せる学生に、どうやったら前向きになってもらえるのか、「教員視点」で授業外でも考えることが大切です。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1 カウンセリング・心理療法の理論を理解し、説明できる。 2 教育相談を行う意義を考え、意見を表明することができる。 3 児童・生徒に対する対応と援助に関する具体的な方法を身につける。	1 カウンセリング・心理療法の理論を理解し、自分の言葉で的確に説明することができる。 2 教育相談を行う意義を考え、意見を適切な言葉で表現することができる。 3 児童・生徒に対する対応と援助に関する具体的かつ有効で現実可能な方法を身につける。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
授業中の小課題への参加状況			○	○			20%
授業中の小課題の内容	○	○	○		○		40%
まとめレポート	○	○	○	○	○		40%

課題、評価のフィードバック	1 授業内で行う課題についてはmanaba@IMUの機能を用いて提出されたものを、次回以降の授業の中で取り上げコメントする 2 まとめレポートについては、提出後、採点基準をmanab@IMU上に掲示する
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	オリエンテーション 「教育相談とは何か」	講義概要や成績評価方法について説明したのち、教育相談の基礎知識について大枠を説明する。	
	第2回	学校カウンセリングとは何か	学校とカウンセリングの関係についての歴史的経緯を踏まえて「カウンセリングマインド」について説明する。	
	第3回	カウンセリングの理論1	カール・ロジャースの理論について説明する。カウンセラーに必要とされる条件について検討した後、討論する。	
	第4回	カウンセリングの理論2	来談者中心療法で重要視される3条件について、ロール・プレイを用いて体験的に学習する。	
	第5回	カウンセリングの方法1	適切な相手の話の聴き方についてロール・プレイを用いながら考え、その場で体験したことを報告する。	
	第6回	カウンセリングの方法2	適切な相手への情報伝達の仕方についてロール・プレイを用いながら考え、その場で体験したことを報告する。	
	第7回	精神分析とカウンセリング	精神分析の知見とカウンセリングとを比較しながらそれぞれの特徴について解説する。	
	第8回	ブリーフ・セラピー的な対応1	問題解決志向について説明する。より積極的なかわり方について考える。ロール・プレイを行いながら、適切な情報収集の方法を検討する。	
	第9回	ブリーフ・セラピー的な対応2	ロール・プレイを行い、「問題」に対する別の捉え方があるかどうかを考える。また、その意義について考える。	
	第10回	個別に抱える困難の理解につなげるために1	「心の理論」について説明し、発達障害児の抱える困難さについて考える。また、ソーシャル・スキルトレーニングについて説明する。	
	第11回	個別に抱える困難の理解につなげるために2	「各年代で必要とされるソーシャル・スキルとは何か？」について討論する。困難さに応じたトレーニング方法についても説明する。	
	第12回	学級集団の問題への対応	個別の対応方法の知識を応用しながら、集団全体への対応方法について考える。学生はグループ・ワークを用いて体験的に学習する。	
	第13回	コミュニケーション・トレーニング	コミュニケーションについてのグループワークを行い、それぞれの体験を、集団で共有し、円滑な対人関係について考える。	
	第14回	これからの教育相談とは	教育相談の歴史的な展開を踏まえ、「これからの教育相談に必要なことは何か」について、特に、チームを組んでの教育相談の必要性に焦点を当て討論する。	
	第15回	まとめ	学生が教育相談の意義について説明するレポートを作成する。	
	試験	定期試験は実施しない。		
授業の進め方		講義に加えて、ロールプレーを行い、体験的に知識を習得する。		
授業外学習の指示		配布資料を精読し理解した上で授業に臨むこと(90分程度)。 毎回学んだ内容を整理し、ノートにまとめておくこと(90分程度)。 (授業外学習時間： 毎週 — 分)		

教科書	使用しない。必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書	適宜、紹介する。
参考URLなど	
その他	授業外の議論にも、manab@IMUを使用することがあります。